

ふじさんの

まこと【真】



富士山

多くの恵みをもたらす、日本最大の陸上火山 富士山

均整のとれた円錐形の山容が美しい富士山。しかし、初めから今のような姿をしていたわけではない。富士山が誕生したのは約10万年前のこと。「^{あしたか}愛鷹山と^{こみたけ}小御岳の間で噴火が起きて富士山の原形となる古富士山が出現し、その後、数百回にもおよぶ噴火と数度の大規模な山体崩壊を経て今のような姿になったのです」と話すのは、静岡大学防災総合センターの副センター長、小山真人教授。しかも富士山は、日本の中では特異な火山だという。「まず山体が陸上では日本最大。あれほど溶岩が流出した例は他にありません。玄武岩という粘り気の少ない溶岩であるため、遠くまで流れて広範囲に広がり裾野を形成しました。富士山から離れた富士川下流や三島駅付近でもその溶岩を見ることができます」。さらに地球を覆うプレートとプレートの境にそびえていることも富士山の特異な点で、それは地震を引き金とした噴火が起きやすいこと

を意味する。そのため特に麓に暮らす人たちは防災の意識を持つことが必要になるが、その前提として「昔から火山と共に暮らしてきたこと、火山によって平坦な土地が形成され、また肥沃な土が作られるなど、多くの恵みを受けてきたことを理解してほしいと思っています」。



30年以上にわたり、火山の研究に取り組む

火山学者 小山真人さん

Note

静岡大学で小山教授が取り組む研究や調査の成果などが閲覧できるHP
http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/public_html/

大学時代は伊豆半島の地層の研究に取り組む。その後、大学院博士課程では東京大学地震研究所に在籍し、研究の一環で現地調査に訪れた三宅島(1983年)と伊豆大島(1986年)の噴火に立ち会ったことをきっかけに火山の研究に取り組むようになった。

現在は静岡大学防災総合センターの副センター長と同大学教育学部の教授を兼任。

最新の著書に、火山学者の視点でとらえた富士山の見どころを、7つの周遊コースに分けて解説した『富士山～大自然への道案内』(岩波新書)がある。

